



大雪山系と日高山脈での快適な携帯トイレの使用環境を。携帯トイレブースや回収ボックスの設置、トイレマップの配布により山岳環境の改善に取り組む。

当会が発足した2000年ごろは、大雪山系、利尻山、羅臼岳などでは、登山者の排泄による汚物やティッシュの散乱、高山植物の踏み付けによる裸地の拡大など、目を覆う惨状でした。これを改善すべく25年間、取り組んできました。

私たちは改善のツールとして携帯トイレに着目しました。登山者に根気よく使用のお願いを続けてきました。トイレのない避難小屋や野営地には携帯トイレブース（以下、ブース）、登山口には携帯トイレ回収ボックス（以下、回収ボックス）を

設置し、携帯トイレの使用環境改善を行政に働きかけました。大雪山系の取り組み
美瑛富士避難小屋では環境省が15年〜19年にテント型ブースを設置して効果検証を実施しました。

維持管理は北海道の山岳9団体（美瑛富士トイレ管理連絡会）が交代してボランティアで担いました。その結果、環境省で固定式ブースを整備し、し尿の散乱は激減しました。現在も点検パトロールやブースの冬囲い、冬囲い外しを継続して実施しています。

トムラウシ南沼野営地にはブースが1基ありましたが、し尿の散乱は続きました。17年〜19年に行政と山岳団体で「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」を設立しました。改善に向け、現地で実態調査やアンケートを実施しました。その結果もう1基増設し、し尿の散乱は激減しました。

裏旭野営地にもトイレがありません。20年〜21年に山岳18団体の賛同を得て、「裏旭野営指定地携帯トイレ検討連絡会」を設立し、分担して実態調査とアンケートを実施しました。22年3月に結果報告書として冊子にまとめて公表しました。環境省も23年と24年にブー



美瑛富士携帯トイレブース冬囲い作業



活動報告会模様



トイレマップ

は13年に制作し、登山者に配布してきました。19年から宿泊施設、ビクターセンター、ロープウェイ会社等の協力を得て窓口に配備しました。毎年約7000部を7年間にわたり配布を続けてきました。24年に沼ノ原大沼野営地にテント泊した時は、テント7張10人が全員持っていたことに驚きました。

日高山脈の取り組み

2022年〜23年に14カ所の山小屋とトイレの実態を調査・公表しました。今年度は尾根や稜線及び

日高山脈でも携帯トイレの使用を行政、山岳団体等にお願いしています。今まで2カ所の登山口で回収ボックスが設置されていましたが、今年度はさらに3カ所が増えました。

日高山脈のトイレマップを新たに2000部制作しました。日高山脈山岳センター等の情報センター、山岳団体、行政などに配布しました。

活動報告会の開催

26年3月に札幌で25年度の活動報告会を22名の参加者を迎えて開催。大雪山と日高山脈のトイレ問題の現状と最新情報について報告、意見交換により課題を共有化しました。

スを設置して効果検証業務を実施、ブース設置が必要との結論となりました。ブース設置に向け行政に働きかけていますが、維持管理の予算確保が課題として残っています。

登山者への啓発活動にも長年取り組みました。山のトイレマップを14カ所の山小屋と回収ボックスを回収しました。



活動報告会集合写真

